

内田 信也

国際医療福祉大学 講師

後天性言語障害者におけるquality of life (QOL)の測定

近年、患者の主観的な評価に基づく、患者立脚型アウトカムである健康関連 QOL 測定に基づく、医療福祉におけるアウトカム評価の重要性が提唱されている。失語症は、主として脳血管障害を原因疾患として生じる後天性言語障害の一種であり、「読む・話す・聞く・書く」の言語の 4 側面の全範囲に及んで困難をきたす障害である。失語症者はコミュニケーション能力の低下をきたしているため、患者本人の主観的意思を聴取することに制限があり、長らく、健康関連 QOL の測定が困難であったが、最近、失語症者の障害特性に配慮した健康関連 QOL 測定方法が開発された。そこで、これを利用し、介護保険サービス受給中の後天性言語障害者を対象とし、健康関連 QOL と言語聴覚士による支援の有無との関連について検討を行った。その結果、言語聴覚士の支援を受けている失語症者に比し、支援を受けていない失語症者においては、心理社会面に関する健康関連 QOL の測定値が低いことが明らかとなった。